



令和元年 11月12日

柳町保育園 NO9

初雪の便りが聞かれ始めましたね。車の冬準備は大丈夫でしょうか？
子ども達は、「発表会」の取り組み中です。小物作りや衣装選びなども本格的になり、練習にも熱が入ってきました。何よりも楽しんで取り組んでくれることを願っています。



<この時期は、感染症がはやります。>

罹らないように用心することも大事ですが、罹ったら他へうつさないようにすることも大事です。保育園は、子ども達の集団生活の場です。感染症が出始めると感染拡大して、蔓延していくことも多くあります。完治せずに登園して、ぶり返すこともあります。病児保育や病後児保育の利用もぜひご検討ください。何よりも、丈夫な身体作りが大事です。バランスのとれた食事と十分な睡眠と休養、そして生活リズムを整えることにも配慮をお願いします。全員そろって発表会を迎えたいと思います。

<人形劇の観覧楽しかったね。>

クレヨンカンパニーの「めがねおじさん」の話術についつい引き込まれていた子ども達です。絶妙のやり取りで、次から次へと登場する人形に、興味津々！一人で何役もこなし、子ども達を魅了していました。等身大の人形ではないので、未満児さんたちも泣かずに楽しんでくれました。芸術・文化の秋の一コマです。



<11月15日は七五三です。>

七五三は、3歳・5歳・7歳の時に「子供の成長を祝いこれからの健康をお祈りする」行事です。七五三の始まりは平安時代ですが、今のような習慣が定着したのは、江戸時代と言われています。現在では、子どもが生まれたらすぐに出生届を出しますが、当時は幼児の死亡率が高かったことから、生後3～4年たってから人別帳や氏子台帳の登録が行われたようです。それゆえ「今まで無事に成長したことへの感謝(お祝い)」「これからの健康を願う」ことの行事とされてきました。「三歳で言葉を理解するようになる」「五歳で知恵がつく」「七歳で乳歯が生え代わる」等や、中国の陰陽説から奇数が縁起の良い数とされてきたことも一説ではあるようです。「千歳飴」にも諸説がありますが、元禄時代に浅草の飴売りが紅白の棒状の飴を「千年飴」「寿命糖」と袋に入れて売り歩いたのが始まりで、「長く伸びる」という縁起にあやかっておめでたい紅白の長い棒飴が作られるようになりました。



昔に比べて、今は子どもが元気に育っていくのが当たり前のようになっていますが、この当たり前のことがとても幸せなことと感じながら、七五三を家族みんなでお祝いしてあげてほしいです。